

■編集・発行／石狩市企画経済部秘書広報課 〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2 Tel.0133-72-3145 Fax.0133-74-5581
 [HP] <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/> 【携帯電話用HP】 <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/mobile/> [Eメール] hjsyokoh@city.ishikari.hokkaido.jp

■制作／(株)キューコーポレーション
 ■印刷・製本／(株)アイワード

■配布問合せ／(有)スポーツ企画 ☎0133-73-5444
 厚田区・浜益区は各支所へ 厚田 ☎78-2011 浜益 ☎79-2111

広告

◎ 石 狩 随 想

109

厚田村

厚田を生誕の地とする作家、子母澤寛(1892年～1968年)の名を冠した「子母澤寛文学賞」「愛猿記賞」の公募と、創価学会戸田城聖第二代会長の平和への希求を伝える「厚田ふるさと平和文学賞」が旧村民有志により今春創設された。すでに平和作品コンクールの一環として小中学生の標語3点を表彰している。「見捨てるな 助け合いが 大事だよ!!」「日本は平和な国と胸はれる」「きのこ雲 過去のことだと 言えるように」▼8月末、厚田で子母澤寛文学賞の一環事業として明治大学副学長の講演やシンポジウムが開かれた。子母澤寛の厚田とその風土への「愛」。複雑な故郷への想いが交叉するなかで、人間の本质に迫ろうとする生き方・思想・作風におよぶ至極の時間が持たれた。松山善三監督は小説『厚田村』の映画化を何故企画したのか。子母澤寛は『座頭物語』の奥に何をみつめていたのか、やはり作家子母澤寛と厚田とは切り離しては語れない▼後日、市民図書館蔵「ふるさと文学館北海道I——厚田日記」を再読し、人間愛溢れる作品に、座頭市との相関を見ることができた。この度の文学賞・平和賞こそ、現代の価値観へ抗う強烈なメッセージ性を持つて創設されたものだと思う。(市長)